

I.

日本ではここ 30 年間、花粉症の患者が急増している。特にスギの花粉症は日本に特有の症状で、花粉が大量に飛散する毎年 2 月下旬 から 5 月初旬にかけては、どこに行ってもマスクを着けている人の姿を数多く見かける。まさに「大流行」といっていいほどの蔓延ぶりだ。

鼻や目などに入った花粉はアレルギー反応をひき起こし、かゆみや鼻づまり、鼻水や涙が止まらないといった症状が長時間続く。そのため睡眠不足になったり集中力が散漫になったりと、仕事や勉強に大きな支障が出る。

完治は難しいが、専門医の適切な治療を受ければ症状は改善できる。しかし、比較的新しい病気なので治療に熟練した医師は少ないのが現状だ。実際、命に関わる病気ではないし、込みあう病院に行くのを嫌って、効き目の弱い市販薬を飲み、マスクやゴーグルを着けて花粉の侵入を防いでいるだけの人が多いのだ。

II.

木造建築で知られる日本には、古くから高層建築があった。京都や奈良の寺院にそびえる五重塔だ。

五重塔は実に不思議な建築である。それというのも、地震の多いこの日本で、歴史上、五重塔が倒れた、という記録がほとんどないからだ。1995 年の阪神・淡路大震災でも数多くの高層ビルが壊れたのに、兵庫県内にある 13 の三重塔はすべて無事だった。いったい三重塔や五重塔はなぜ倒れないのだろうか。

I.

第二次世界大戦後、憲法と地方自治法の条項に伴い、日本の地方自治体と中央政府との実質的な関係について、自治権と独立性（形態、運営面における）に対する認識が高まった。しかし、自治団体とは認められていても、財源と方向性については中央政府から供与・指導されており、様々な方法においてその影響下にある。

2000年4月に地方分権一括法が施行され、広範な行政事務が国から地方へと委譲された。また国の地方に対する規制削減の一環として、地方自治法のかなりの部分が見直された。さらに、地方における行政サービスのレベルと効率を改善し、また地方自治体が、委譲された権限をよりよく活用して人口の高齢化や財政難等の問題に当たることができるよう、国は積極的に市町村の合併を進めている。

II.

2001年3月に、政府は新たに「規制改革推進3か年計画」を決定し、今回は前計画で用いられた「規制緩和」に替えて「規制改革」の文字を名称に入れた。この計画では554項目が、法務、金融、教育、医療、雇用、流通、エネルギー等の15分野で取り上げられている。また、IT、環境、競争、基準認証、資格制度といった複数の分野をカバーする改革項目も104項目含まれた。

2001年4月には、内閣府の一部として総合規制改革会議が設置され、3年を任期とした首相の諮問機関として機能した。この会議が作成した最初の二つの

報告は、2002 年と 2003 年になされた 3 か年計画の改定の基礎となった。

2002 年の改定計画では医療、社会福祉・子育て、雇用、教育、環境、および都市再開発の 6 分野に焦点が置かれ、2003 年の改定計画では、構造改革特区の設立と活用を促進することに新たに重点が置かれた。2003 年 12 月に出された規制改革会議の最終報告書では、過去の改革努力の成果がまとめられ、将来取り組むべき課題が示された。